

これまで学習設計で見過ごされてきた  
学習者側の事情：  
Can-do能力記述文再考

山崎直樹  
(関西大学)

言語教育における  
インクルージョンを考える  
～当事者の声を聴く～

立命館東京キャンパス, 2019.8.31

# 話の道筋

- Can-do能力記述文とは
- 既存の言語教育の能力標準の問題点
- インクルーシブ・デザインを目指して

# 提起したい問題

- Can-do能力記述文の欠点をあげつらいたいのではない
- 既存の能力標準はいかに**多数派の視点**で作られているか

# Can-do能力記述文

## 定義

- 「**～できる**」という形式
- 何かの能力の**到達目標**を記述した文
- 到達目標は**観察可能な学習者の行動**で示すべし

# 例

- 購入する意思の有無を、口頭で伝えることができる。
- バスや電車にどんな種類があるか、説明できる。
- 相手の年齢や立場を配慮して、手紙を書くことができる。
- 国際社会で生きていくために何が必要かについて、意見交換できる。

# 言語教育の 標準 (standards)

- 能力記述：～できる
- 能力記述：～できる
- 能力記述：～できる

.....

⇒ **標準 standards**

# 言語教育の「標準」

- 強制力はない。「ガイドライン」「めやす」……**参照のための指標**
- 誰もこれを絶対的なものだと思っていない（実情に応じて修正して使っている／使えばよい）
- 能力記述文に瑕疵があったとしても実害は少ないかもしれない。

# では、何を訴えたいのか？

われわれがごくふつうの能力記述として受けとめて  
いる「言語教育の標準」が、いかに**多数派の視点**で  
作られているか



# 既存の「標準」は有効に 機能するかを検討してみましよう

外国語を教える教室の中に、

- 目や耳の不自由な人がいたら……
- 肢体の不自由な人がいたら……
- その他の障害のある人がいたら……

# テストする「標準」

『外国語学習のめやす：高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（国際文化フォーラム, 2012）

- 400項に近い具体的な「能力指標」

# 例. 移動の保障

- 学校のなかを、設備の配置などを説明しながら案内することができる。（学校生活 Level 3）

# 例. 経路 channel の指定a

- お祝いの気持ち（おめでとう、頑張ったねなど）を、口頭でまたは書いて伝えることができる。（人とのつきあい Level 1)
- 目的地までの交通機関、ルート（乗降駅、乗換駅など）、所要時間や料金について、尋ねたり、口頭でまたは書いて教えたりできる。（交通と旅行 Level 2)
- 家族の職業（会社員、学生など）やペット（名前、種類、飼いはじめた時期など）について、口頭でまたは書いて紹介しあうことができる。（自分と身近なひとびと Level 2)

# 伝えられれば経路を問わない？ それとも両方を要求？

- お祝いの気持ちを、口頭でまたは書いて伝えることができる。
- 目的地までの交通機関、ルート、所要時間や料金について、尋ねたり、口頭でまたは書いて教えたりできる。
- 家族の職業やペットについて、口頭でまたは書いて紹介しあうことができる。

## 例. 経路の指定b

- 携帯番号やメールアドレスを、口頭で伝えあうことができる。（自分と身近なひとびと Level 1）
- 学校のこと（制服、給食、宿題、体育館・図書室ほかの設備の有無など）について、口頭でやりとりできる。（学校生活 Level 1）
- 支払いの仕方（割り勘、ご馳走になる / する）について、口頭でやりとりできる。（食 Level 2）

# 問題点 1

- 「口頭で」という経路は、これらの目標において **本質的な**条件なのか？
- 音声言語を使用しない学習者はどうすればよいのか？
- 多数派に対し、**オルタナティブな経路**を指導する知識・スキルは？

# 例. 情報保障

- お店の看板(レストラン、食堂、ファストフードなど)を、見て理解できる。(食 Level 1)
- 広告やカタログなどを見て、買いたいもののリストを作ることができる。(買い物 Level 1)
- 施設(駅、空港、店など)の案内表示(〇〇行き、切符売り場、入り口、入国検査など)や街中の標識(交通標識、立ち入り禁止、出入り口など)を、見て理解できる。(交通と旅行 Level 1)
- 食品のラベルにある主な情報(商品名、食材、食べ方、賞味期限、カロリーなど)を、見て理解できる。(食 Level 2)



# 問題点 2

教育に使う情報へのアクセスの保障を考えているか？

【例】 言語を教える教師は、レアリア（生教材）を好んで用いるが、その情報にアクセスできない学習者もいる

# 例. 学習者相互のインタラクション

- 卒業後の進路（進学する、就職する、留学するなど）および将来就きたい職業や働きたい場所について、**話しあう**ことができる。（自分と身近なひとびと Level 2）
- 将来の夢や希望について、**語りあう**ことができる。（自分と身近なひとびと Level 3）

# 問題点 3

- 気軽に「話し合う」「語り合う」と書いてあるが、  
「**1つの経路を共有している**」を前提にしていないか？
- **多数派のデフォルトの経路**を共有できないばあい、  
多数派はどうしたらよいかという、知識・スキル

# さらに……

『外国語学習のめやす』の「キーコンセプト」の中にこんな記述が……

- 学習対象言語や**母語**を使って、主体的かつ積極的に他者と対話をして、相互作用しながら共に関係をつくり上げていくことができる。

# 問題点 3

- 教室内の学習者が「**1つの母語**」を共有していることを前提にしていらないか？
- 気軽に「話し合う」「語り合う」と書いてあるが、「**1つの経路**」を共有していることを前提にしていらないか？
- **多数派のデフォルトの経路**が共有できないばあい、多数派はどうしたらよいかという、知識・スキル

参考：

# 大学入試センター試験の「配慮」

( [https://www.dnc.ac.jp/center/shiken\\_jouhou/hairyo.html](https://www.dnc.ac.jp/center/shiken_jouhou/hairyo.html) )

- 「視覚」「聴覚」「肢体不自由」「病弱」「発達障害」「その他」が対象
- どんな配慮が？（少なくとも同程度の配慮は大学の教室においても……）

# 問題点のまとめ

我々は、**多数派**の認識（だけ）に基づいて、すべての学習者に対して、同じ形態の情報を提供し、同じ  
方式で活動すること要請し、同じ所要時間を見積もり、同じ体裁の成果を要求しているのではないか？

# さらに……

言語を教える教師が、とうぜんのように「教えて」  
いる学習項目の中で、ほんとうに**本質的**なものは何  
だろうか？

(たとえば、「漢字」とかはどうかだろう……)



じゃあ、どうすれば？

インクルーシブ・デザイン

Inclusive Design

# インクルーシブ・デザイン

- ユニバーサル・デザイン（検証するためのフレームワーク）との違い
- 『インクルーシブ・デザイン：社会の課題を解決する参加型デザイン』（ジュリア・カセム他編著、学芸出版社、2014）

- **ユーザーをデザインプロセスに取り込む**参加型のプロセス
- **重要なユーザー**のニーズや能力やライフスタイルを深く理解する必要



**当事者**と共同で言語学習の設計をする